いわき民報

発行所　社報いわき民報社
平市田町一番地電話三八一番
編輯兼発行人　平郷寛明
印刷人　同
日刊　但月曜を除く
定価一ケ月十円一部十五錢

官公署の半休取消決議

東部地方石炭復興會議の名の下に

祖國再建を妨げるものと

祖國産業の再建、國民生活の安定の鍵は石炭の増産に俟つとして常磐炭田を始め全國各炭田では態度に不足勝ちな資材面その他各面に及ぶ凡ゆる惡條件を克服一路増炭に日夜の奮闘をつづけているのにもかゝわらず、これら増炭戰士ばかりか全國民の苦闘を尻目に去る二十一日來各官公署の大部分が、政府の指令のもとに八月いつぱい半休をつづけ、午前中だけの執務にとゞめることは眞に遺憾千萬であり、國民を指導すべき位置にある役人自らがかゝることでは祖國再建は覺束ないのみか増炭戰士にも惡影響を及ぼすと眞然別項二十三日の東部地方石炭復興會議の席上で問題となつた結果、同會議では官公署の夏季半休の即時撤廢を叫び左の如き決議を行い復興會議の名のもとに政府並に各關係方面に一矢放つことに決つた

決議

國家經濟崩壊の危機に際し全國民鑛は勞資一體となつて言語に絶する焦燥を冒し石炭増産、産業復興に白熱の死闘を展開しつゝあり

この時に當り獨り官公廳が夏季半休を實施せるは國家再建共同責任の建前より甚だ遺憾に堪へず

よつて東部地方石炭復興會議は單に次官會議における決定による官公廳夏季半休に反對し實施の取消を要望す

報奬物資の獲得決議

きのう本社樓上の石炭復興會議

東部地方石炭復興會議は二十三日本社樓上に開催、先づ永尚次長から全國會議並に各地區での勞資懇談會の報告及び上半期出炭目標百四十萬トン突破を期するための第二、四半期の目標七十萬一千トンを必達するとゝもに第一、四半期の目標達成の不足三萬四千二百三十トンもあはせて達成するよう希望、この結果來るべきお盆休日をこ年は二日間に短縮、全炭鑛が一丸となつて勞資の一致協力による自主的増産に一路邁進することを固く申合せた、なお同時にこの増炭戰に挺身するツルハシ戰士に酬ゆるため適當なる報奬物資を獲得することを申合せ左の如き決議を行い、政府を始め石炭關係物價その他へ要請することに決つた

一、決議　日本經濟の再建

救援麥供出を懇請

端境期の突破策に地方事務所で

石城地方事務所では八、九、十の端境期突破策として既報の如く保有農家に呼びかけ『割供米をこん請することゝしたが、さらに麥の町村割當にもとづく五%の救援麥の供出こん請も行うことに決定、目標を大麥千三百七十八俵、小麥二百六十五俵と決め町村につぎの如く割當た（括弧内は小麥、單位いづれも俵）

▽泉六〇（六）渡邊三八（五）椚田七五（一二）山田八二（一七）錦七〇（一〇）勿來八三（一四）上遠野四九（九）入遠野四六（一六）川部五六（一二）田人三〇（七）飯野三〇（四）夏井一五（八）高久三八（一九豐間一七（四）江名二三（一）鹿島二四（一）小名濱四九（三）磐崎四二（八）湯本一三（三）内郷二五（六）好間三八（一）赤井三九（一四）永崎二四（五）澤三三四（六）神谷三八（六）草野六四（一二）大浦七六（八）四倉一四（一）大野三八（一三）小川五四（一一）川前二一（四）平三五（七）△大麥千三百七十俵（△小麥五千三百四十五俵）

湯本町會

湯本町會は二十六日午後一時から町役場會議室で町會を開き、これら雜穀についても來同樣の統制ができるわけ

縣下中等校卓球大會

二十九日磐女で

縣體協主催の本年度縣下男女中等學校卓球選手權大會は二十九日午前八時から磐女講堂で擧行する

湯本町役場のサービス

湯本町役場では比佐町長就任以來町政の民主化と明朗化に努めて來たが先頃から役場入口に各課の案内見取圖を表示し初めて行つても迷はず用がたせるようにし又椅子の設備もしてサービスしているので好評を博している

雜穀類も統制へ

郡から夫々通知

これまで雜穀については供出の對象とせず單に代替供出をみとめているだけだつたが食糧管理ほう施行令の改正によつてカラス麥、アワ、ヒエ、

湯本町會

湯本町會は二十六日午後一時から町役場會議室で町會を開

眠る物價監視委員に活

きょう平驛に召集

關物資の一掃と國民に明るい生活をと昨年九月縣では各驛に物價監視委員を配置したが平驛ではこれら監視員は名のみで實際活動をみていないので

女だてらに大亂闘

双方とも二週間の傷

市内ねぎ町無職成田アサさん（三四）と夏井村大字藤間馬忠賀ミサさん（六四）は二十二日午前十一時頃成田さん宅でさゝいのことから口論の揚句女だてらに取組み合いをはじめ成田さんは頭部に忠賀さんは上膊にいづれも二週間の傷を負つた

縣議財政審議委員に

郡市選出の議員に選ばれた

沼、馬目兩縣議は財政

てるさん殺し証人調べ

きのう刑檢事が湯本町に出張し

獵奇を極めて故比佐昌平代議士の妹てるさん殺し事件について平支部裁判所岩住刑事及び鈴木檢事は二十三日湯本町に赴きしよう人調べを行つた

フイルム　セミパール　パーレツト
みのり　ニースト　プロベ
タカザワ　カメラの
平・田町・51

いわき寸言

◎働けど働けどわがくらし樂にならず一たく木の歌いよいよ切實

◎働けば食へない妙な世の中になり申した、割り切れないことでござす

◎石炭復興會議でお役所の半ドンに反對決議、大衆內閣を謳誇る片山さんお面一本

◎藏相新円に手わつけぬといゝながら入閣したお人の申すことゝして嬉しか

麥と芋の町村割當決る
きのう郡食糧調整委員會で

麥、いもの町村割當を決定する郡食糧調整委員會は既報の如く廿三日午前十時から平市第二小學校講堂に招集、割當大麥二萬四千二百三十俵、小麥五千八十俵、馬鈴薯五萬千六十七俵（外に種子用十四萬九千貫）達成を目指して原案どおり町村別割當をつぎの如く決めた（單位は何れも俵）

町村別	大麥	小麥	馬鈴薯
泉	一、二〇〇	一一〇	二、〇一三
渡邊	七五〇	九〇	二、〇七四
植田	一、五〇〇	二三〇	一、八九八
山田	一、六二五	三三〇	一、九一一
錦	一、三九〇	二〇〇	一、三七八
勿來	一、六五〇	二七〇	二、七九〇
上遠野	九七五	一七五	四八七（一五、〇〇〇貫）
入遠野	九一〇	三一〇	七八（一四、〇〇〇貫）
川部	一、一二〇	二三〇	九九四（一八、〇〇〇貫）
田人	六〇〇	一四〇	六九七（一六、〇〇〇貫）
飯野	六〇〇	七〇	二、一三三
夏井	一、二九〇	一六〇	二、七八一
高久	七六〇	三八〇	二、〇三五
豐間	三三〇	七五	一、二七八
江名	四六〇	三〇	六四五
鹿島	四七〇	四〇	一、一一四
小名濱	九八〇	五〇	一、〇八一
磐崎	八三五	一六〇	一、九五九
湯本	二五〇	六〇	六七五
內郷	四九〇	一二〇	一、二三五
好間	六〇七	一一〇	二、三四九
赤井	七六〇	二七〇	一、六三六
永戸	四八〇	九〇	一八〇（一三、〇〇〇貫）
澤三	四八〇	一二五	六五四（二八、〇〇〇貫）
神谷	七四五	一一〇	二、七四四
草野	一、二七五	二三〇	三、一三七
大浦	一、五二〇	一五〇	一、四九四
四倉	二八〇	一一〇	五二九
大野	七六〇	二五〇	二、三〇六
小川	一、〇七〇	二一〇	一、四一五
川前	二一四	六五	三八三（一五、〇〇〇貫）
平	六八五	一三〇	四、九七八
合計	二四、二三〇俵	五、〇八〇俵	五一、〇六七俵（一四九、〇〇〇貫）

すべり出し頗る順調
麥イモの供出じよう況

二十三日現在郡下における麥じやがいもの供出高はこ麥二千五百俵馬鈴薯一萬五三俵を突破した、二十七、八日ごろ個人割當が完了するので來月初旬から供出繪卷がくり廣げられるが目下のすべり出しは好調

天皇奉迎準備協議

天皇陛下御巡幸に就いて湯本町としての奉迎準備協議會は二十六日午後一時から町役場に開く

盜水問題に審問委員を

小名濱町では例の上水道盜そ水問題がその後放任されたまゝでいるので一部町の民疑惑を生んでいるのに鑑み二十二日の町會協議會で問題となつた結果馬上喜一、小野武雄鈴木正、立花秀吉、坪內清の五町議を審問委員に擧げ關係者を近く町役場に召集し査問會を開くことになつた

小名地方の降雨量
二日間で八石五斗余

小名濱町を中心に廿二日と二十三日兩日雷雨があり農家を喜ばせた、小名濱測候所の測量によると二十二日は坪當り實に七石八斗五升又二十三日は七斗九升とある

江名町の集團チブス
現在患者七名に

【既報】江名町南北兩町および同畑一帶に發生した集團チブスは一時終熄したかのように見られたが、二十三日南町漁夫佐川勝定さん（二八）も醫師診斷の結果、チブスと決定隔離された、これで同町の患者は七名に達した、なお蔓延の兆があるので町當局では平保健所の協力をもとめて防疫に萬全を期している

縣の端境期突破對策
救援米のほか魚肉野菜果實等で

縣ではさきに政府が發表した食糧緊急對策にもとづき遲配の平均化と輸入食糧放出の事情に即應し八月から十月にいたる食糧の集荷配給消費などについて適當な措置をとるためこんど縣食糧緊急對策本部をもうけ二十三日救援米制度の採用や魚肉、果實、野菜など副食物を計がく配給におり込んで突破案をつぎのように發表した

一、緊急救援米制度の採用　生產者の隣人愛に訴へ飯米年間保有者に保有米の一部を節約して供出するように懇請する供出運動は消費市町村を中心として數ヶ町村をもつて單位地域とし原則として消費市町村に配給する（七月一日にさか上つて實施）

二、果實野菜　現在縣內消費に割當てられているもの十四萬貫りんご十萬貫が對象となつているが九月から出はじめるなしも考慮されている、配給は四市の消費者を對象にしているが具體案は目下硏究中である野菜はかぼちやが取上げられているがこれも具體案は硏究中

三、魚類　つぎの要領によつて水產物の集荷を促進し家庭配給確保をはかる

△水產物の供出集荷を確實に勵行せしめる

1廿六日に縣內出荷機關ならびに荷受機關の合同會議を開く

2出荷機關に係員を派遣し出荷を督勵する

3現地機關をして強力に出荷の輸送に當らしめる

4縣內の生產者に對して可及的リンク以外の資材作業衣シャツなどを報奬用として配給する

△配給量　四市には一ヶ月に鮮魚六回（一回三十匁）加工品三回（一回二十匁）を配給する

四、得肉△生畜（牛馬、ぶた、めん羊、山羊）畜肉の縣外移出は當分の間禁止する△各家畜商の協力をへて縣內と殺を實施しその一割以內を除いたものを四市と對象として計がく配給する月二百頭をと殺、一人五十匁ずつ配給（馬百匁三十円牛同五十円）

△內臟はと殺後直ちにと殺場において煮沸し計がく配給する（百匁二十円）

△食肉商業協同組合において自由販賣店と配給販賣店を區分して販賣する

△生畜の出荷は縣農業會が一元的に取扱い、これを食肉商業協同組合が買受け食肉業者に割當販賣せしめ、四市の食肉業者は生畜の買受けはこれを禁止する

△市民の配給計がくは各市役所において配給表を交付する

△實施期間は八月一日から九月三十日までとし主食配給のじよう況によつて特に期間を短縮することがある

緬羊組協議會

石城緬羊組合では二十三日午前十時から泉羊協會事務所ひる田縣農業事務長ほか各町村農業擔當者の出席を得て緬羊せり市の日割報告其の他支部長等の經過報告後こん後の對策その他を種々協議した

各地區に集團赤痢

當局の防疫陣を尻目に眞夏に入つてまたも郡下に集團赤痢が發生している、二十三日現在の患者は十九名に達しているが、うち好間村が八名草野村が五名を占めており平保健所では全町村に衞生思想の普及と防疫運動を展開している

二人組御用

市內ね宜町鍛冶工阿部政雄（二四）神谷村鎌田野村弘司（一八）ー假名は共謀し本年數回にわたり月見町佐藤鐵工所並に大丁町平鐵工場からモータ用卷線カーバイト、荒ろう其の他を盜み二十三日平署に御用

盂蘭盆も近ずきました
先祖の尊いお姿を
肖像畫におすゝめ致します
服裝の自由永久絕對不變色
菊水肖像畫院
平市五丁目電九八九番

レントゲン科
內科
平市一丁目四九
谷口醫院
谷口孝雄